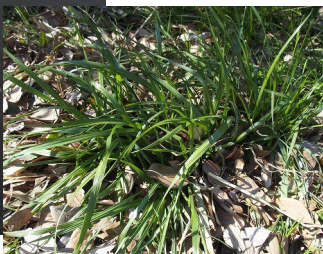




→やがて木の芽
が伸びて春らしく
なる日も近い。

←江戸川にやって来た白鳥。
下の写真のイネ科の草の葉
を差し出すと近寄ってきて食
べる。どうやら好物のようだ。
見たところケガをしていて飛
べないようだ。



昨日二十四日は気温十四〇、今日は八〇。わずかひと晩で気温が六〇も下がった。今日は寒い一日だった。

このところ矢切の渡しが休みの日には、どこからともなく江戸川にやって来た一羽の白鳥と遊んでいる。

しきりに水中に首を突っ込んで川底の水草を探しているのを見て、ひよつとしたら餌が不足しているだろうなと思つて道端にあつたイネ科の草を差し出したら近寄ってきたしきりに食べるではないか。

じつはその前日、野菜のような緑の葉が好みではないかと思つて与えてみたが見向きもしなかつた。

そこで考えた。野生の白鳥は田んぼに舞い下りて落ち穂などを食べていたのを思いだし、イネ科の草なら食べるのではないかというので与えてみたら食べた。それが上の写真である。

とりあえず、この白鳥がいるあいだは、通つて行つて餌を与えてやろうと思つている。

そんな日々のある日、堤防の芝生にうづくまる三人を見た。しきりになに



今週のクマ

→けげんそうな顔で私のほうを見つめるクマ。なにを考えているのだろうか？



→小さな移植ゴテで大地にへばりついた状態のタンポポを掘る中国からやって来た人。下の袋の中はいっぱい。



かを採っている。いったん通り過ぎたが
思い直して引き返し話しかけてみた。

ところが、ちらつと振り向きはするが
なにも答えない。なおも声をかけると、
無言のままに堀採った草を口にに入れて食
べるかっこうをする。

言葉がしゃべれないのかと思ってなお
もたたずんでいると老齢の男が近づいて
きてスマートフォンらしいものを黙って
私に差し出すではないか。

受け取ると電話の向こうから若い女の
声が聞こえた。その声の主は私にもわか
る声でこういった。

「いま掘っているのはタンポポなの。喉
にいいので掘ってるんです。うちの子が
喉が悪くて食べさせようと思って……」

電話の主はどうやら娘らしい。両親と
おばさんが遊びに来ていて、孫のために
採りに行ってきているそうだ。

中国のハルビンから来ている。中国で
はタンポポが好まれていて、みんなが堀
採るために少ないそうだ。

きれいに洗って生で味噌を漬けて食べて
も、乾燥してお茶にしてもいいという。

中国では春先のタンポポは日本人がノ
ビルを食べるようによく食べるそうだ。